

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤのラーバが出現しました

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称：ハナ)

ラーバは久栗坂沖で1.1個体/m³、川内沖で0.8個体/m³見られました (表1、図2)。

(2) サンカクフジツボ (通称：アカガキ)

ラーバは見られていません (表1、図3)。

(3) ムラサキイガイ (通称：カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは久栗坂沖で7.2個体/m³見られました (表1)。

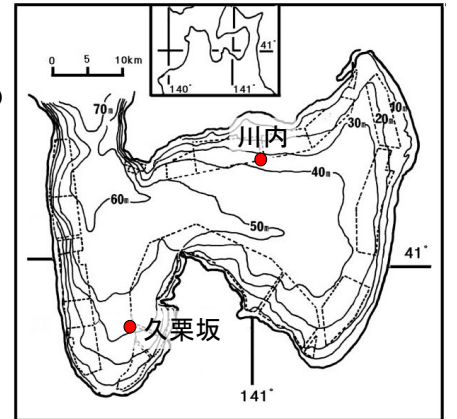


図1 付着生物ラーバの調査地点

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

現在、陸奥湾内の中層の水温は24℃前後となっています。

ユウレイボヤは水温20℃以下で本格的に産卵するので、10月以降にラーバの出現数と付着数が増加すると思われる。

(2) サンカクフジツボ

付着直前のラーバは見られないため、付着は終了と考えられますが、7、8月にラーバの出現が多かったことから、今秋の稚貝分散作業や来春の耳吊り作業の効率が低下すると思われる。

(3) ムラサキイガイ

今年は1月にラーバの出現ピークが見られました。今後、秋から冬にかけて出現数が増加する可能性があります。秋から冬生まれのラーバの付着はほとんどないことが分かっています。

表1 ラーバの出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	単位：個体/m ³	
			ムラサキイガイ	サンカクフジツボ
久栗坂沖	R6.9.17	1.1	7.2	0.0
川内沖	R6.9.17	0.8	0.0	0.0

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

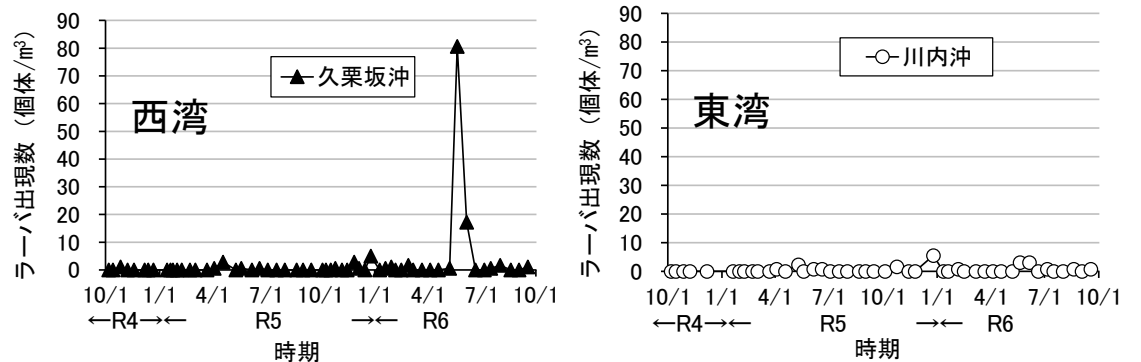


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移 (令和4年10月～令和6年9月)

・平成25年の観察開始から現在までの最大値：西湾 25.0個体/m³、東湾 10.0個体/m³

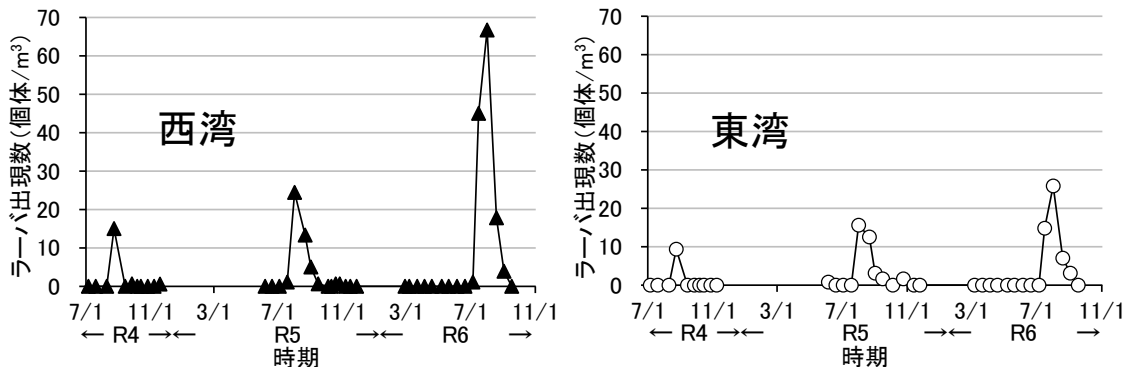


図3 サンカクフジツボラーバ出現数の推移 (令和4年7月～令和6年9月)

・令和元年の観察開始から令和5年までの最大値：西湾59個体/m³、東湾45個体/m³

